



## は 這えば立て 立てば歩めの親心

校長 岩崎 撰也

全体的にコロナの感染者数が下火になり、5/8には2類から5類に引き下げるなど「コロナ後」に舵を切ろうとしています。この3年間におよぶコロナ禍の中で1ヶ月に渡って学校を休業したこと、修学旅行の日程を変更せざるを得なかったこと、外部から講師を呼んだり、校外での体験活動ができなかったりする場面もありました。だからこそ実施することができた行事の場面で生徒たちが輝く姿、成長する姿は学校の教育活動にとって本当に大切なものと改めて実感する機会となりました。「コロナ後」の環境は歓迎すべきことですが、まだコロナの危機が去ったわけではないので今後も慎重に対応していくことが必要だと思っています。

3年生は公立高校の入試を3月2日(学力検査)、3日(面接)に控え、最後のスパートで学習や面接の練習に取り組んでいます。高校入試は生徒たちが自分の意思で志望する高校を決めて受検する、初めて自分の人生の舵をとる経験であり、高校側は入学に値する人を選びます。生徒たちにとって初めて「客観的に選ばれる」経験でもあります。これからの人生では自分の望む進路にすすむために、自分の力を発揮する場を得るために他者と競い、「選ばれる」という経験をたくさんしていくことでしょう。その意味では高校入試は大人への階段を登る第一歩ともいえます。「選ばれる」時に後悔のないよう最後まで努力して臨んでほしいと思います。

タイトルの「這えば立て立てば歩めの親心」は、子どもの成長を楽しみに待ち望む親の心を表したことわざです。中学校3年間の課程を終え、慣れ親しんだ学び舎を巣立っていく我が子の姿は、保護者の皆さまにとって万感の思いがあると思います。学校という小さな社会の中で、仲間とぶつかり、仲直りする中で思いやりや人との関わりを学ぶ、行事や日々の授業、部活動の中でなかなか思い通りにいかず壁を感じることもあったと思います。でもそれらを一つ一つ乗り越えてきた経験は自分の血となり肉となって、たくましく成長した卒業生の今の姿につながっています。それから、こうした生徒の「育ち」を支えているものはご家庭での愛情によって培われた安心感・安定感です。愛されているという安心感からさらなる自信や意欲が生まれ、頑張ることができるのだと思います。卒業生の皆さんには今まで育ててくれた保護者の皆さんに感謝を忘れず、自信と挑戦する心を持って次のステージで活躍することを祈っています。

3月10日(金)に中春別中学校卒業式を挙行いたします。保護者の皆さまにご出席いただき、巣立ちゆく卒業生に励ましの言葉を掛けていただければと思います。よろしくお祈りいたします。